

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用されている一人ひとりが、今までの生活を大切にしながら自分らしい生活を引き続き送ることができるよう、ご本人の気持ちを大切に「住み慣れたこの村で、たくさんの方々に見守られながら、個性豊かに健康で楽しみある時間を過ごして頂けるよう、スタッフが寄り添いあたたかくご支援させて頂きます」の理念に基づき、日々の生活を共に過ごさせて頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは役場や消防署、道の駅等がある村の中心部にある。利用者は村で生活してきた方々であり、職員は住み慣れた地域で自分らしく笑顔で安心した生活を送っていただけるように日々の支援に努めている。また、関わりや傾聴を大切に楽しみのある生活となるように支援しており、ホーム内の雰囲気も明るい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Main evaluation table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関や事務所に理念を設置することでいつでも見えるようにしている。年に1回内部研修で理念を振り返る機会を持つことで代表者、管理者、職員が支援の目標を共有しながら実践している。	企業理念の他に「住み慣れたところで自分らしく過ごしてほしい」との思いから数年前に見直した理念をもとに、実践している。年1回全職員が理念の実践について振り返り、自分の支援について考える時間を設けており、振り返りは記録に残し職員間で共有している。理念は玄関と事務所の見やすい場所に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の状況を見ながら地域との交流の機会を図っている。	村内の行事も少しずつ開催されてきているが、昨年コロナ感染症のクラスターが発生したという経験があり、慎重に進めている。今年の3月には保育園に雛飾りを見学に行き、利用者の皆さんがとても喜んだとのこと。正月には出初式に回ってもらったり、近所の方が野菜を差し入れしてくれたり、可能な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	機会は少ないが電話等での相談があった際は対応させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策により書面開催で行っており事業所での取り組みや出来事を報告させて頂いている。ご意見やアドバイスを頂きながらより良いサービス提供に努めている。	役場の職員に書面開催で良いのか確認を取りながら、現在は書面での開催を行っている。委員の方々に書類を持参し、口頭で意見をもらう等しており、実際に、ヒヤリハットへのアドバイスから履物を変更する対応を行ったこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員等と随時情報交換を行いながら連携をさせて頂いている。村の公共施設のご協力を頂き、毎月図書館から本を借りご利用者様に提供やレクリエーションで活用させて頂いている。	地域包括支援センターから空き状況の確認や在宅の方の相談がある。村立の図書館から毎月本を借りており、図書館職員がホームを訪問し、本の入れ替えを行ってくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化のための指針に基づき定期的に委員会で話し合い身体拘束をしない取り組みを行うと共に、不適切な対応の無いよう内部研修を行いご利用者様への声かけ、接し方について配慮を心がけている。日中は玄関の施錠は行わず職員が見守ることで家庭的な雰囲気の中で生活して頂いている。	内部研修を行い、身体拘束をしない支援や虐待防止についての意識を高めている。以前、帰宅願望が強い利用者がいた時期も施錠はせずに、見守りを行いながら対応したとのこと。入浴等への拒否が見られる時には対応職員を代えるなどし、不適切な対応につながらないように努めている。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、事業を利用されている方はいないが必要があった際は過去の実績から利用に向けての支援体制は整っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明の時間を設け丁寧に説明している。不明な点はわかりやすく伝えるよう心掛け、疑問があればいつでも対応させて頂くことも伝えている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	来設時や電話の際にご意見や要望等をお聞きするよう努めている。必要時は役場、包括支援センター等へ相談できることを契約時に説明している。	家族の多くが村外に住んでおり、電話があった時に利用者の状況報告をしたり要望を聞いたりしている。一人ひとり別に利用者毎の写真を載せた「ほおずき便り」を送ったり、毎月の請求書に手紙を添える等し、安心につなげている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	必要に応じて随時話し合いの場を設けて意見交換を行い改善に向けて取り組みを行い環境、条件の整備に努めている。	人員が少ない時期があったが、その時は社長が職員から話を聞き、勤務体制を検討したり、食事提供の負担を軽減するために簡易的な食事の提供を行ったりしたとのこと。その後、人員が増えて来た時には、職員からの要望で手作りの食事に戻したとすることで、職員の意見を反映させる仕組みができています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会は少ないが他市の事業所と連絡を図りながら情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に不安に思っていること等を一つ一つの事に対しゆっくりとお話を聴きお気持ちを共有することから始めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前後に十分に話し合う時間を確保し不安なことや要望をお聴きしている。遠方のご家族様には不安に思っていること等いつでも電話で対応させて頂くことを伝えている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の声に耳を傾け、表情やしぐさの変化を見逃さず同じ目線で物事を考え共に生活を楽しめるよう工夫している。ご利用者様の助け合いの場面も共に支え合って生活が送れるよう職員も一緒に間に入り良好な関係を築けるよう支援させて頂いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とご利用者様の状況を共有しながらケアの方向性を見出したり、その都度情報交換を行いながら生活を支えていくよう努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	これまでの生活を大切にしながら暮らしていけるよう馴染みの美容室の利用など個々の要望に合わせた支援を行わせて頂いている。希望があればいつでも電話をかけることをお伝えしている。	馴染みの美容院の利用等、希望に応じて対応している。家族と電話したい希望がある利用者には電話を掛ける等、関係を継続できるように努めている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士と一緒に会話を楽しんだり軽作業を行ったりできる空間づくりに努めながら職員も間に入り良好な関係づくりに努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大半が入院されてからの契約終了であり、次の行き先が決まるまで居宅介護支援事業所の担当ケアマネージャーと連携を取りながら経過フォローを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	6か月ごとにケアプランの見直しを行い定期的に思いや意向の把握に努めている。コミュニケーションを大切に日常生活の中から一人ひとりの生活の様子を把握するよう努めている。困難な場合はご家族様から情報を頂いたり今までの生活の様子から検討している。	話すことが難しい方には普段の様子などからくみ取り、遠慮して話さない方にはさりげなく話しかける等、利用者に応じた思いの把握に努めている。話を聞く時も傾聴に努め、初めから出来ないということではなく、なるべく出来るように対応している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様より基本調査として生活歴をお伺いしている。電話や来設の際も過去の生活の様子やご家族様の中のエピソード等も聞かせて頂いている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ご利用者様の現状を把握しご利用者様、ご家族様、職員でご本人らしく生活を送ることを話し合い実現可能な介護計画を作成している。	利用者の変化等については毎月のミーティングで話し、必要に応じてカンファレンスを行い、介護計画に反映させている。介護計画は6か月毎に見直しているが、状況に応じて柔軟に見直しを行うこととしている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個人記録のパートナーの気づきや対応とケアプランの実践業況を記入やチェックする欄を設け、過去1か月分の記録を事務所の手の届きやすい場所に置くことで共有している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域の中で地域の方々と馴染みの関係性を保ちながら生活して頂けるよう努めている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力病院をかかりつけ医としているが、病状や希望のある方は他市町の病院への受診の対応を行っており必要に合わせて相談、助言を頂いている。村内に薬局が無いため他市の薬局と連携させて頂き薬の配達や相談・助言を行って頂いている。	村内の診療所をかかりつけ医としているが、受診科によっては北秋田市総合病院等への受診対応を行っている。また、かかりつけ医以外でも希望がある場合には対応している。家族が付き添い、他市の個人病院を受診している利用者もいる。村内には薬局が無いため能代市にある薬局が対応しており、配達や薬の内容変更時の説明等連携が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が中心となりご利用者の心身の状態の変化に気付いた支援を行わせて頂き、変化等が見られた場合は早急に受診したり協力病院の看護師に相談することで適切な健康管理に努めている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際はご家族様や担当看護師、ソーシャルワーカーと連絡を取り都度状況把握に努めている。情報交換やケースカンファレンスにて医療機関とホームが同じ方向を持って支援出来るよう努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご利用者様とご家族様に看取りは行わないことや重度化した場合は次の生活の場を話し合うことの必要性を説明しておりご理解を頂いている。	契約時に、本人と家族に看取りは行わない方針であることを説明し、理解を得ている。状態が変化し入院や他の施設に移行する場合も、家族や居宅ケアマネジャーと相談しながら不安なく移行できるように努めている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講習受講者1名おり随時職員への講習の参加を促している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日勤帯、夜間帯想定での避難訓練を実施している。災害時避難場所において障害者支援施設から指定協定も頂き、避難の際自治防災会の避難移送の協力も頂けることになっており地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行っており、今は消防署職員の参加は感染症対策から控えているが、水消火器を借りて訓練する等している。運営推進会議でお願いし、避難時に地区の方からの協力を得られることになっている。7月の大雨の時は、役場職員の協力も得て指定協定を結んでいる障害者支援施設に避難したとのこと。BCPIは今後取り組んでいくこととしている。	会社内の他の事業所に既にあるというBCPを参考にしたり、実際の避難の経験も活かしたりしながらBCPの作成を進め、安心につなげていくことを期待します。
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮した声かけを行っている。毎日の生活において個々の過ごし方を尊重させて頂き、個別の話は居室で行う等プライバシーに配慮しながら支援を行っている。	居室を訪問した時に話を聞いたり、個人的な話は小さな声や居室でする等プライバシーに配慮している。話を聞く時は、利用者の気持ちを聞くこと、共感することを大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの選択をご利用様に選んで頂くことで個性を引き出して自分らしく過ごして頂いている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備を手伝って頂いたり畑で収穫した旬の野菜を使用したり、ご利用者様の状態に合わせて食べやすく盛り付けをする等楽しみながら食事が出来るよう工夫している。誕生会には手作りケーキ、行事食もご利用者様の希望を聞きながら提供させて頂いている。	家族から山菜の差し入れがあった時に下準備を手伝ってもらう等、できることを行ってもらっている。食事は食べやすいように盛り付け方を変える等、利用者の状態に合わせて工夫している。誕生会には手作りケーキ、夏にはアイス、季節に合わせた果物等を提供しており、好評を得ている。敬老会のために地域の弁当屋にお願いした食事は、大変喜ばれたとのこと。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立表を使用している。1日の食事、水分の摂取量を記録し状況を把握している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせて毎食後口腔ケアを促し口腔衛生を保っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に時系列で排泄状況を記入し排泄パターンの把握に努めながら支援を行っている。ご利用者様の身体能力に応じて介助を行わせて頂き、排泄介助に抵抗感がある方には様子を見ながらさりげなく声がけを行い介助をさせて頂いている。	排泄パターンの把握に努め、なるべくトイレで排泄できるように支援している。リズムに沿って声掛けをする他、本人から訴えがある場合は都度対応している。一部介助が必要な利用者もおり、身体状況に応じた支援をしている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れ毎朝乳製品の提供を行っている。また、歩行訓練や体操等体を動かす機会を作り便秘対策のアプローチを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には週2回以上、その方の心身の状態に合わせた方法(声がけ、時間、福祉用具の活用)で入浴して頂いている。時間帯は午前と決めさせて頂いているが、入浴の順番やシャンプー等ご本人の希望に添いながら行わせて頂いている。	午後は利用者との関わりや散歩の時間が持てるように、午前入浴としている。声掛けを工夫しながら、週2回入浴できるように努めている。入浴に拒否が見られた時には、時間をおいて声をかけたり、次の日にしたりと無理の無いようにしている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて就寝前のお手伝いやゆっくりと関わりを持たせて頂いている。日中の休息もご本人の状態に合わせて休息して頂いている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各薬ケースに入れ職員が常に服薬内容の確認が出来るようにし、個々の内服薬の目的、副作用、用法を理解している。主治医や薬剤師よりその都度詳しく説明を頂いている。服薬変更時等の場合、状態に変化が見られないか観察を行い必要に応じて主治医に相談している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農園活動では野菜の育て方等をご利用者の方々に教わり採れたての野菜を献立に取り入れて楽しんで頂いている。裁縫が得意なご利用者様もおり、衣類のほつれ等手直しを手伝って頂く等役割を持つことで張り合いある生活を送ることが出来るよう支援を行っている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染状況を見ながらご希望があれば出かけられるようにしており、ご家族様等の協力で外出している。	親戚の方の協力を得て、自宅に物を取りに出かける利用者がいる。外出の機会はあまり持っていないが、初夏には北秋田市の翠雲公園にあじさいを見学に出かけた。以前は保育園の発表会に出かける等していたが、遠くなったため行くことが難しくなっている。	感染症対策をしながら、外出の機会を持ち楽しめるよう検討していくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望や能力に合わせてご家族様の理解を得ながら金銭の所持、使用を支援している。</p>		
43	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースは清潔で温かみのある空間を心掛けている。各居室、リビングはエアコンを設置しており細やかな室温調整を行っている。季節を感じて頂けるよう折り紙作品等を飾ったり心地よい空間の中で過ごして頂けるよう努めている。</p>	<p>天井が高く開放的であり、天窓から光が入り明るい空間となっている。食事後の掃除も丁寧に行われており、清潔で衛生的である。ホーム内には、利用者と職員とで作った季節の飾りや折り紙等が貼られている。カレンダーは日めくりとなっており、意識できるようになっている。リビングでは、図書館から借りた大きな本を使用して読み聞かせや紙芝居をする等、ゆっくりと楽しめるようになっている。</p>	
44		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>3人掛けのソファを3シート設置しており気の合う利用者同士、またお一人でゆっくりと過ごして頂けるよう環境を整えている。</p>		
45	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご利用開始の際は今までの生活空間に近い状態で安心して過ごして頂けるよう話し、使い慣れた物品をお持ち頂いている。遺影を持って来られる方や自身で作成した作品を飾られている方もおり、一人ひとりの生活空間を大切にさせて頂いている。</p>	<p>ベッドとエアコンが備え付けられている。タンスなどの馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むことができおり、安心して過ごせるような空間となっている。遺影が置かれていたり、自身で折った折り紙で飾り付けられていたり、思い思いの居室になっていることが確認できた。</p>	
46		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの状態に合わせ危険の無い範囲で備品整備を行ったり、職員がご利用者様の状態に合わせて環境を整えご自身で動作が出来るよう配慮に努めている。</p>		